

都市計画部の若手職員研修

模擬議会「都議会」開催

——住民と共に創造できる若手職員に期待

去る8月4日、大津市役所・新館大会議室において、都市計画部の若手職員研修が模擬議会という形で開催されました。運営・企画は若手職員がおこなったとのことで、本会議さながらの緊張感のある雰囲気にもまれていました。

模擬議会は、管理職が質問し、若手職員が答弁するという形で進行。取り上げられた項目には、この間、市議会本会議で議論が重ねられてきた懸案事項も多く含まれており、傍聴に参加した議員も答弁に注目していました。

例えば市営住宅や公園のバリアフリー化、堅田駅西地区・膳所駅周辺・大津駅西地区の開発事業の進捗状況、狭隘道路の拡

幅、市街地の活性化など市民の関心が高く、住民の願いも大きい課題をどのように捉え、応えていくのか、職員の姿勢が問われます。

答弁の一つ一つに責任を持つことはもちろんですが、まちづくりは市民とともに丁寧に対応して進めていくべきです。市民が何を求めているのか、ともに創造し、若手職員の新しい視点を生かして、課題解決に向けて取り組まれることが期待されます。



世界の流れは核廃絶 確信深めた3日間

岸本のり子市議

三井寺で 原爆犠牲者慰霊法要

平和願う風船3千個、空へ

8月6日、今年も三井寺で原爆犠牲者慰霊法要が行われ、塚本正弘市議と黒かづ子市議が参加しました。

観音堂へ向かう長い階段を上るうちに、一人一人の尊い命が原爆で一瞬にして失われたことへの

怒りと、平和への思いが高まります。約200人の参加者が、原爆が投下された8時15分、黙祷をささげ、平和な世の中を願って風船を空へ放ちました。

戦争体験を語る方が少なく、次々代を担う私たち若い受け継ぎ、唯一の被爆国として、日本政府に非核三原則の法制化を求め、と、日本共産党市議団も決意を新たにしてい



法要に参列する塚本正弘市議↑



原水爆禁止世界大会に初参加

広島・長崎の被爆から65年—8月2～9日まで原水爆禁止2010年世界大会が広島・長崎で開催されました。

私は、小学6年生の娘といっしょに広島の大会(4～6日)に参加しました。広島の秋葉市長の大会あいさつは「核の傘」からの離脱を政府に求める力強い発言で、国連の潘基文(バンキムン)事務総長からもメッセージが寄せられました。

6日に行われた平和式典では、初めて国連事務総長や、原爆投下国の米国ルー大使も参加。また、核保有国の



英・仏など、過去最大の74カ国の政府関係者が出席し、核兵器廃絶の早期実現を訴えるなど、世界は大きく変わっていると感じました。

しかし、地球上にはなお膨大な数の核兵器が配備さ

世界大会会場の様子



れ続けており、被爆国である日本の菅首相が平和式典終了直後に「核抑止力は必要」と述べるなど、「核兵器のない世界」を望む被爆者や世界の流れに逆行する日本政府の姿に怒りがわきました。

大会には、私のように子どもを連れた母親や、若者の姿も多く、こうした皆さんとさらに運動を広げ、一日も早く核のない世界を子どもたちにバトンタッチできることを願い、決意を新たに広島を後にしました。